



博・学連携先進施設視察研修の実施

今年度の博・学連携研究委員会の事業である博・学連携先進施設視察研修を11月11日（水）に実施しました。今年度の視察先は、一関市博物館と奥州市埋蔵文化財調査センターでした。例年ですと、教育長より委嘱を受けた博・学連携研究委員以外の、市内小・中学校の先生方にも参加案内を差し上げていましたが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、研究委員の先生方と博物館職員だけの参加で実施しました。

一関市博物館は、「和算に挑戦！」という事業で、応募された解答が正解かどうかや、どの解答の仕方が素晴らしいかを、一関地方教育研究会中学校数学教育部会や、同小学校算数教育部会に審査していただいているということでした。また、各学校では、冬休みの宿題にするなどして取り組んでいるということで、博物館と学校や教育研究団体との連携が上手くとれていると感じさせられました。その他、一関市は教育振興基本計画の重点プロジェクトの一つに「ことばを大切にする教育プロジェクト」を位置付けていて、そのプロジェクトへの博物館の取組として、学芸員が学校を訪問し、分かりやすく「ことばの先人」に関する授業（「ことばの先人出前授業」）を行っているということでした。

奥州市埋蔵文化財調査センターは、学校がセンターを見学に来た際の児童・生徒の理解を図る方法として、VR体験やタブレットを使ってAR体験を行っていました。また、見学前に学校側に胆沢城や古代史、考古学に関する質問を集めてもらい、当日学芸員が回答するようにしているということでした。奥州市埋蔵文化財調査センターは、体験学習の種類が多く、土笛づくりや土偶づくり、玉鈴づくり、縄文アクセサリーづくり、平安貴族のおやつづくりなども行っていました。



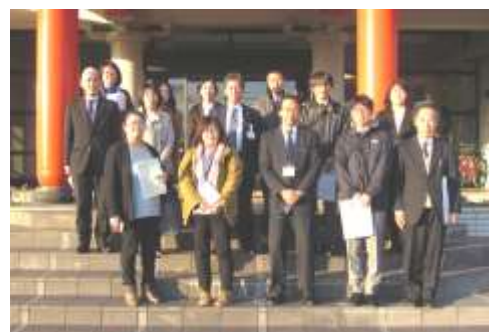
一関市博物館での研修の様子



一関市博物館で展示されていた昔の道具



奥州市埋蔵文化財調査センターが作った体験学習のサンプル



文化財調査センター前で、参加者全員で記念撮影

授業で使える 博物館常設展示の紹介⑥「花巻の学問と寺子屋」



寺子屋の様子

江戸時代、子供たちに教えることは「読み書きそろばん」といわれますが、ほとんどの寺子屋では習字と読書だけを教えていました。ただ、商業の盛んな地域でそろばんの先生のいないところでは、寺子屋で算術も教えていました。

寺子屋に入ると、先生が書いた手本で手習いを初めて、次に「手紙文」に進み「往来物（おうらいもの）」と呼ばれる寺子屋の教科書の読み書きをしました。「往来物」の読み書きが出来れば、寺子屋での教育は十分とされていました。（常設展示解説より）



往来物

文部省が行った「寺子屋取調表」によると、花巻には川口町に和様堂と吹張堂、北笹間に仁義堂という大きな寺子屋があったことが記録されています。また、各地区には、近所の子供たちを集めて「読み」「書き」を教える小規模な寺子屋があったことが分かっています。（花巻市博物館常設展示図録87Pより）

11月に当館に来館した 市内の小・中学校の紹介

11月は、若葉小学校（6年生）と笹間第一小学校（6年生）、湯口小学校（6年生）の3校が見学に来館しました。



鳳凰御陳太刀拵（ほうおうごじんたちこしらえ）を熱心に見学している笹間第一小学校児童

令和2年度共同企画展

「小野寺周徳」

が始まっています



小野寺周徳は、花巻城出入りの医師の子として生まれました。花巻地方の画人の中でも、先駆者的存在であった周徳の魅力に迫ります。

展示期間12月5日 ～ 翌1月31日